

岡病防第15号
平成30年8月3日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成30年度病害虫発生予報第5号

平成30年8月3日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	少
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	少
	紋枯病	—	やや多
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	並
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	少
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	並	やや少
	コブノメイガ	やや遅	少
	カメムシ類	—	やや少
ダイズ	べと病	—	やや少
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	並
モモ	モモハモグリガ	並	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
	ハダニ類	—	やや多
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	—	やや多
	べと病	—	並
	ブドウトラカミキリ	並	並
	フタテンヒメヨコバイ	並	並

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病	—	並
	うどんこ病	—	やや少
	褐斑病	—	並
トマト	疫病	やや遅	やや少
	葉かび病	—	並
ダイコン	軟腐病	—	やや多
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや多
野菜共通	アブラムシ類	—	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
	ハスモンヨトウ	並	並
キク	ハダニ類	—	並

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は12.1%で平年(49.4%)より低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では初発後の病勢進展が速いので、早期発見に努める。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場率は0%で平年(17.6%)より低く、中部地帯は25.0%で平年(41.2%)より低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなど穂いもちの多発が予想される場合は、液剤ま

たは粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

イ. 不安定な大気の状態で、にわか雨などが続くと病勢が進展する可能性がある。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. イネの茎数は概ね平年並である。

イ. 7月24～27日の巡回調査によると、発生圃場率は22.1%で平年(15.1%)よりやや多かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 昨年多発生した圃場では伝染源が多いと考えられるので、圃場をよく観察し、適切に防除を行う。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 台風による暴風雨や豪雨による浸冠水は本病の発生を助長し、急激にまん延する場合があるため、豪雨により浸冠水した圃場では、発生状況をよく観察し、適切に防除を行う。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ: 早生種、中生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生は2.3%で平年(8.3%)より低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月24～27日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、1頭で平成(64.9頭)より少なかった。

イ. 7月24～27日の巡回調査によると、発生圃場率は7.0%で平成(42.5%)より低く、すくい取り(20回振り)調査での成幼虫数は1.1頭で平成(30.8頭)より少なかった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、0頭で平成(0.1頭)並であった。

イ. 7月24～27日の巡回調査において発生を認めず、発生圃場率は平成(0.1%)並であった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 圃場をよく観察し、本虫を確認したら直ちに防除を徹底する。

イ. 本虫は圃場内に局在し、また稲の株元に集中するので、より多くの稲の株元を丁寧に観察する。

(9) イチモンジセセリ (第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査によると、発生圃場率は1.2%で平成(6.4%)より低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 少

予報の根拠

ア. 7月24～27日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平成(19.2%)より低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬のアカスジカスミカメの誘殺数は203頭で、平年(580.7頭)より少なかった。また、真庭市の予察灯における7月1～5半旬の誘殺数は、64頭で過去8年間の平均値(83.9頭、参考値)よりやや少なかった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は180頭で、平年(210.6頭)並であった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生時期 並

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は0頭で、平年(79.4頭)より少なかった。

イ. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(4.1%)より低かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年

並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は1頭で、平年(51.1頭)より少なかった。

イ. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は51.4%で平年(42.3%)並であった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は37.8%で平年(31.0%)並であった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月26日の県予察圃場での発病葉率は63.9%で平年(40.3%)より高かった。

イ. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は21.4%で、平年(13.7%)より高かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26日の県予察圃場での発病葉率は37.4%で平年(27.9%)よりやや高かった。

イ. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は71.4%で平年(55.3%)よりやや高かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや抑制する条件となる。

防除上の参考事項

ア. ブドウべと病に登録のあるストロビルリン系及び作用点が同一の殺菌剤(アゾキシストロビン剤、クレソキシムメチル剤、ファモキサドン剤)に対して感受性が低下した耐性菌が本県の一部で確認されている。本系統の殺菌剤の使用は1作期1回とし、他系統の殺菌剤と組み合わせて使用する。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%で平年(2.8%)並であった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26日の県予察圃場での発病葉率は36.8%で、平年(53.5%)より低かった。

イ. 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は100%で平年(67.0%)より高かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、やや発生を抑制する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月26日の県予察圃場での発病葉率は23.0%で、平年(27.0%)並であった。

イ. 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年(46.8%)より低かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年

並とされており、特に発病を助長する条件ではない。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26日の県予察圃場での発病葉率は23.2%で平成(17.3%)よりやや高かった。

イ. 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平成(49.5%)より低かった。

ウ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、発生をやや助長する条件である。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平成(3.3%、過去10年間で1年のみ発生)並であった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、発生をやや抑制する条件となる。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は12.5%で平成(16.9%)よりやや低かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、発生を特に助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月23日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平成(31.8%)よりやや高かった。

イ. 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平成並とされており、発生を助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 7月20、23日の巡回調査によると、ダイコンでの発生圃場率は25.0%

で平年（22.0%）並であった。

イ． 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

（野菜共通）

（1）アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア． 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は40頭で平年（60.2頭）よりやや少なかった。

イ． 7月20、23日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が0%で平年（38.3%）より少なく、キュウリでは25.0%で平年（35.7%）並であった。

ウ． 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

（2）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア． 7月20、23日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ． 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

（3）ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア． 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は180頭で、平年（210.6頭）並であった。

イ． 7月20、23日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ． 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、特に本虫の増殖を助長する条件ではない。

4 花き類

（キ ク）

（1）ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア． 7月20、23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（8.9%）より低かった。

イ． 8月2日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量はほぼ平年

並とされており、本虫の増殖をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

